

**Oracle® WebCenter Sites**

サイト・キャプチャ・アプリケーション・  
インストラクション・ガイド

11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69687-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites: サイト・キャプチャ・アプリケーション・インストール・ガイド, 11g  
リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69687-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites: Installation Guide for the Site Capture Application, 11g Release 1  
(11.1.1)

原本著者 : Tatiana Kolubayev

原本協力者 : Ankush Chadha, Amit Kumar, Gaurang Mavadiya

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、それを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

## 目次

対象読者 .....	5
関連ドキュメント .....	5
表記規則 .....	6
このガイド内の手順 .....	6
サード・パーティのライブラリ .....	6
<b>1 はじめに.....</b>	<b>7</b>
Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャの概要 .....	8
このガイドの手順.....	8
開始する前に.....	8
インストール・ワークシート.....	12
次の手順.....	12
<b>2 アプリケーション・サーバーの構成.....</b>	<b>13</b>
構成オプション .....	14
Tomcat アプリケーション・サーバーの構成.....	14
WebLogic アプリケーション・サーバーの構成 .....	16
WebSphere アプリケーション・サーバーの構成 .....	17
<b>3 Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャのインストール.....</b>	<b>19</b>
インストール手順 .....	20
サイレント・インストーラの実行.....	20
GUI インストーラの実行 .....	21
サイト・キャプチャのデプロイ.....	29
Tomcat アプリケーション・サーバーへのデプロイ .....	30
WebLogic アプリケーション・サーバーへのデプロイ .....	30
WebSphere アプリケーション・サーバーへのデプロイ .....	31
インストール後の手順.....	31
サイト・キャプチャで Oracle データベースを使用する場合.....	31
サイト・キャプチャ・アプリケーションの検証.....	32
サイト・キャプチャを操作するためのユーザーの認可.....	32
次の手順.....	33

---

<b>4</b>	<b>パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャの有効化</b> .....	<b>35</b>
	サイト・キャプチャと Oracle WebCenter Sites のパブリッシュ・プロセスの 統合 .....	36
	次の手順.....	37
<b>A</b>	<b>サイト・キャプチャ・ファイル・システム</b> .....	<b>39</b>
	一般的なディレクトリ構造 .....	40
	カスタム・フォルダ.....	42

## このガイドについて

このガイドでは、動的にパブリッシュされた Web サイトをダウンロードするために使用される Web アプリケーション、Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャのインストール・プロセスについて説明します。

このガイドで説明しているアプリケーションは、旧 FatWire の製品です。命名規則は次のとおりです。

- Oracle WebCenter Sites は、以前は *FatWire Content Server* 呼ばれていたアプリケーションの現在の名称です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites を *WebCenter Sites* と呼ぶこともあります。
- Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャは、以前は *FatWire Site Capture* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャを *サイト・キャプチャ* と呼ぶこともあります。
- Oracle WebCenter Sites: Web エクスペリエンス管理フレームワークは、以前は *FatWire Web Experience Management Framework* と呼ばれていた環境の現在の名前です。このガイドでは、この環境を *Web エクスペリエンス管理フレームワーク* または *WEM フレームワーク* と呼ぶこともあります。

サイト・キャプチャ・アプリケーションは、Oracle WebCenter Sites 11g リリース 1 (11.1.1.x) の動作保証マトリックスの仕様に準じて Oracle WebCenter Sites と統合されます。詳細は、WebCenter Sites のリリース・ノートを参照してください。最新の動作保証マトリックスおよびリリース・ノートについては、WebCenter Sites のドキュメント・サイトを定期的に確認してください。

### 対象読者

このガイドは、アプリケーション・サーバーおよびデータベースなど、エンタープライズ・レベルのソフトウェアのインストールおよび構成経験のあるユーザーを対象としています。WebCenter Sites および WEM フレームワークの全体管理者としての経験も必要になります。

### 関連ドキュメント

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド』
- 『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』

## 表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用します。

- **太字**は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インタフェース要素を示します。
- *斜体*は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅フォントは、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- 等幅太字フォントは、コマンドを示します。

## このガイド内の手順

このガイドに記述している手順の一部は簡易手順として記述されており、様々な操作を実行する際のクイックリファレンスになります。たとえば、アーカイブ済サイトのクローラのリストを表示するには、次に示す簡易手順を参照します。

クローラ → *crawlerName* → **アーカイブ**

前述の手順は次を意味します。

「クローラ」ホームページに移動してクローラをポイントし、ポップアップ・メニューから「**アーカイブ**」を選択します。

概念、機能および関連操作の説明が必要な場合は、その手順が詳細に記載されています。

## サード・パーティのライブラリ

Oracle WebCenter Sites およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライブラリが含まれています。詳細は、*Oracle WebCenter Sites 11gR1: サード・パーティのライセンス*を参照してください。

## 第 1 章

# はじめに

この章では、サイト・キャプチャ・アプリケーションおよびインストール手順の概要について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャの概要](#)
- [このガイドの手順](#)
- [開始する前に](#)
- [インストール・ワークシート](#)
- [次の手順](#)

## Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャの概要

Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャは、Oracle WebCenter Sites: Web エクスペリエンス管理 (WEM) フレームワークを介して Oracle WebCenter Sites と統合される Web アプリケーションであり、動的にパブリッシュされた Web サイトを、評価、コンプライアンス準拠の確認、高可用性要件の実現、およびその他のシナリオに備えてキャプチャします。

クロールは、サイト・キャプチャ・インタフェースから手動で開始することも、WebCenter Sites のリアルタイム・パブリッシュ・セッションの完了に続いてトリガーすることもできます。いずれの場合も、クローラによって、ユーザーの選択に応じて次のいずれかのモードでサイトがキャプチャされます。

- 静的モード: いつでも提供可能なファイルとしてサイトが格納されます。最新のキャプチャのみ保持されます。
- アーカイブ・モード: zip ファイルにサイトが格納されます。サイト・キャプチャ・データベースのポインタを使用することで、サイト・キャプチャ・インタフェースからのアーカイブの管理が可能になります。

## このガイドの手順

このガイドには、次のものに役立つサイト・キャプチャのインストールおよび構成手順が含まれています。

- サイト・キャプチャ・インタフェースから手動で開始される静的キャプチャおよびアーカイブ・キャプチャ。
- WebCenter Sites のリアルタイム・パブリッシュ・セッションの完了に続いてトリガーされる静的キャプチャおよびアーカイブ・キャプチャ。パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャを設定することもできます。
- 管理ユーザーおよび開発者。サイト・キャプチャ・アプリケーションは、サイト・キャプチャ・アプリケーションを実行する WebCenter Sites システムの全体管理者向けに設計されています。開発者は、静的にキャプチャしたサイトを Web サーバーの doc ベースにコピーするといった `post-crawl` コマンドを実行するためにサイト・キャプチャでトリガーするコードなど、高度なクローラ構成コードを記述します。

## 開始する前に

このガイドは、アプリケーション・サーバーおよびデータベースなど、エンタープライズ・レベルのソフトウェアのインストールおよび構成経験のあるユーザーを対象としています。WebCenter Sites および WEM Admin インタフェースの全体管理者としての経験も必要になります。

- このガイドの手順を実行するには、RESTAdmin セキュリティ・グループに属する WebCenter Sites の全体管理者である必要があります。
- Oracle WebCenter Sites 11g リリース 1 (11.1.1.x) の動作保証マトリクスをダウンロードして、サポートされているオペレーティング・システム、アプリケーション・サーバー、データベースおよびブラウザについて確認してください。サイト・キャプチャの詳細は、Oracle WebCenter Sites のリリース・ノートを参照してください。

- このガイドを読んで、サイト・キャプチャのインストール手順について理解してください。基本的な手順は、サイト・キャプチャ・アプリケーション・サーバーの構成、インストーラの実行によるサイト・キャプチャ war ファイルの作成、サイト・キャプチャのデプロイ、インストール後の手順および検証手順の完了になります。その後、パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャを必要に応じて設定します。
- すべてのシステムで、JDK 1.6 の有効なインストールをポイントするように JAVA\_HOME 変数を設定します。
- サイト・キャプチャのインストール・コンポーネントを準備します。
  - 開発モードまたはコンテンツ管理モードで実行されている、完全な機能を備えた専用の Oracle WebCenter Sites インストールがあることを確認します。サイト・キャプチャを実行するには、WebCenter Sites システムと通信する必要があります。
  - サイト・キャプチャ・アプリケーション・サーバーおよびアプリケーション自体をインストールする専用のホスト・マシンがあることを確認します。インストール・プロセス中にサイト・キャプチャを構成して、自身のホスト・マシン上で動作する前述の WebCenter Sites システムと通信できるようにします。
  - サイト・キャプチャ・アプリケーションを単一アプリケーションとして実行するか、クラスタ・モードで実行するかを決定します。単一サーバー・インストールの図については [10 ページの図 1](#) を参照してください。クラスタ・インストールの図については [10 ページの図 2](#) を参照してください。
    - 次のコンポーネントをインストールまたは再使用します。
      - サポートされているサイト・キャプチャ・アプリケーション・サーバーを専用のホスト・マシンにインストールします。クラスタ・インストールでは、それぞれのサイト・キャプチャ・インスタンスにアプリケーション・サーバーをインストールします。
      - クラスタ・インストールでは、選択したホスト・マシンにロード・バランサをインストールします。サイト・キャプチャのインストール・ディレクトリは、すべてのクラスタ・メンバがアクセスできる共有ディレクトリである必要があります。
      - アーカイブ済サイトを格納するには、WebCenter Sites のデータベースを再使用するか、専用のサポートされているサイト・キャプチャ・データベースを選択したホスト・マシンにインストールします。
- パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャを実行するかどうかを決定します。実行する場合は、WebCenter Sites ソースおよびターゲット・システムが必要になります。
  - ターゲット・システムでは REST API および WEM SSO API が提供されます。これにより、パブリッシュ・セッションの終わりにサイト・キャプチャ・アプリケーションと通信を行い、必要なクローラを開始できるようになります。その後、クローラの起動ステータスがサイト・キャプチャ・アプリケーションからターゲットの WebCenter Sites システムに送信され、同じ情報がソースの WebCenter Sites システムに送信されます。両方の WebCenter Sites システムで、自身のログ・ファイル(デフォルトは futuretense.txt)にステータス情報が記録されます。

- ソースおよびターゲットの WebCenter Sites システムをサイト・キャプチャ・インストールに統合します。実行可能な構成の一部について、11 ページの図 3 および 11 ページの図 4 を参照してください。
- サンプル・クローラをインストールするかどうかを決定します (**推奨**)。サンプル・クローラの詳細は、20 ページの最初の「注意」を参照してください。
- サイト・キャプチャは、サイレント・インストーラまたは GUI インストーラを使用してインストールできます。サイレント・インストーラでは、設定に必要なすべての情報のヘルプおよびサンプル値が用意されています。

図 1: 単一サーバー・インストール

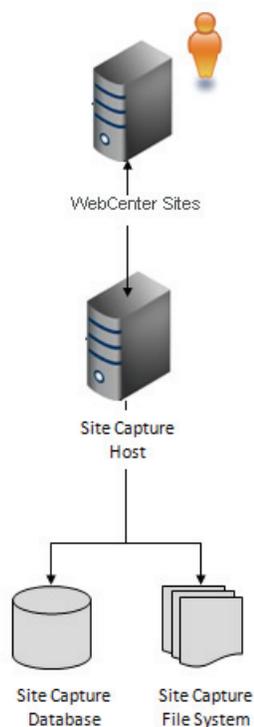
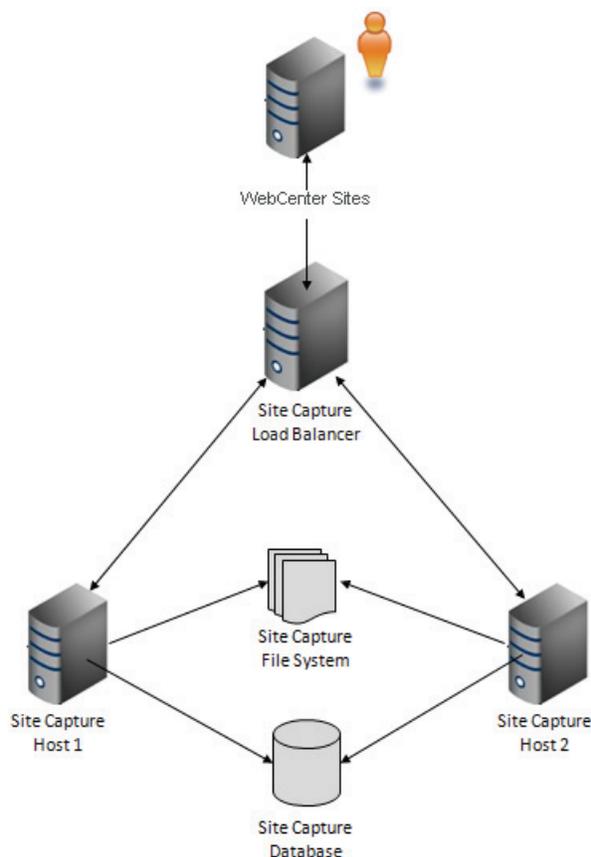


図 2: クラスタ・インストール



**図 3:** パブリッシュ・トリガー・キャプチャに対応した単一サーバー・インストール

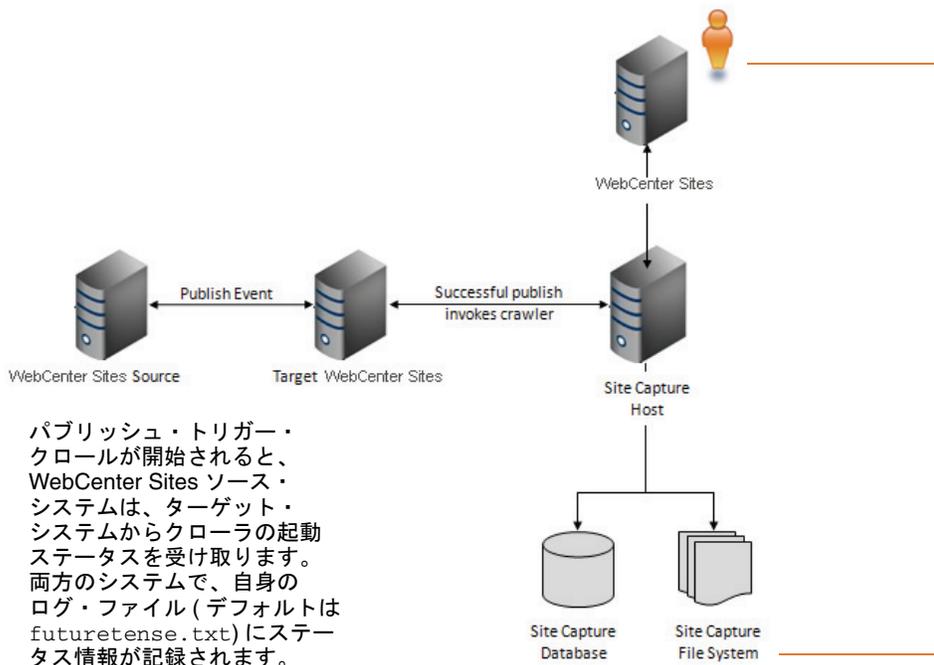


図 1 の  
単一サーバー・インストール

**図 4:** パブリッシュ・トリガー・キャプチャに対応したクラスタ・インストール

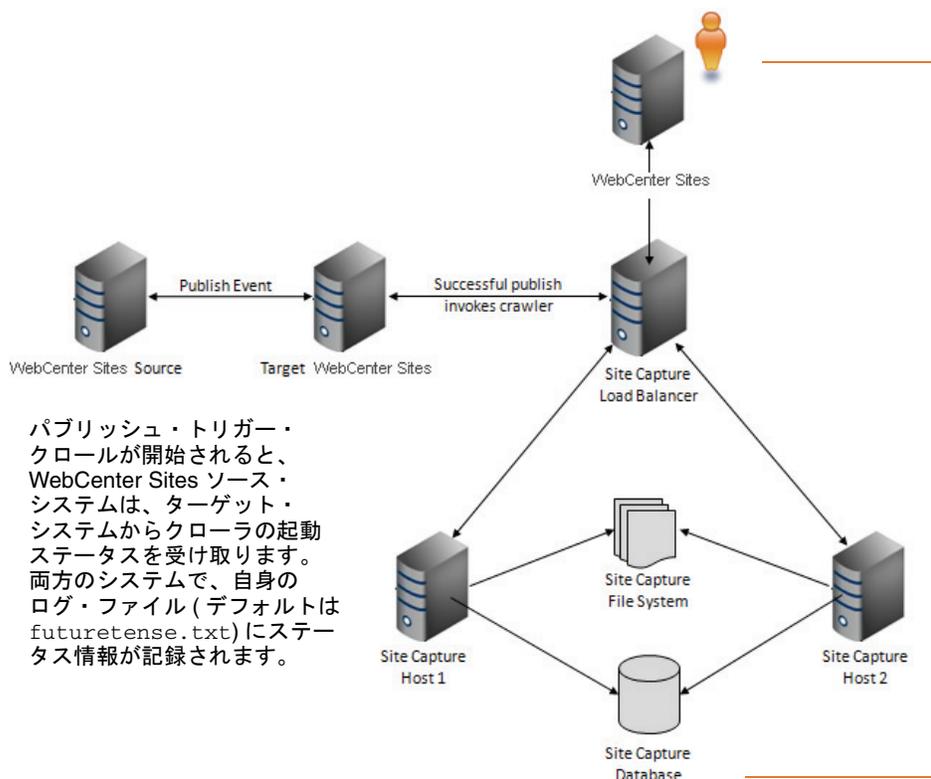


図 2 の  
クラスタ・インストール

## インストール・ワークシート

サイト・キャプチャ・アプリケーション・サーバーの構成時に使用するパラメータは、サイト・キャプチャの war ファイルを作成するためにインストーラを設定する場合にも使用します。これらのパラメータを次の表に記録してください。

インストール・タイプ	インストール・パラメータ
すべてのタイプ	<p>WebCenter Sites のホスト名 (または IP アドレス)。これは、サイト・キャプチャがアプリケーションとして動作する WebCenter Sites です。</p> <p>WebCenter Sites のポート番号:</p> <p>WebCenter Sites のコンテキスト・ルート:</p> <p>WebCenter Sites の全体管理者のユーザー名:</p> <p>前述のユーザーのパスワード:</p> <p>CAS のホスト名 (または IP アドレス):</p> <p>CAS のポート番号:</p> <p>CAS のコンテキスト・ルート:</p>
単一サーバー	<p>アプリケーション・サーバーのホスト名 (または IP アドレス):</p> <p>アプリケーション・サーバーのポート番号:</p> <p>アプリケーション・サーバーのデータソース名:</p>
クラスタ	<p>ロード・バランサのホスト名 (または IP アドレス):</p> <p>ロード・バランサのポート番号:</p>

## 次の手順

第2章「アプリケーション・サーバーの構成」に進みます。

## 第 2 章

# アプリケーション・サーバーの構成

サイト・キャプチャは、単一アプリケーションとして実行することも、クラスター・インストールで実行することもできます。

この章は、次の項で構成されています。

- [構成オプション](#)
- [Tomcat アプリケーション・サーバーの構成](#)
- [WebLogic アプリケーション・サーバーの構成](#)
- [WebSphere アプリケーション・サーバーの構成](#)

## 構成オプション

この章では、単一インスタンスまたはクラスタ・モードで実行しているサイト・キャプチャをサポートするようにアプリケーション・サーバーを構成します。次のいずれかの手順を実行します。

- [Tomcat アプリケーション・サーバーの構成](#)
- [WebLogic アプリケーション・サーバーの構成](#)
- [WebSphere アプリケーション・サーバーの構成](#)

### 注意

アーカイブをプレビューするには、サイト・キャプチャ・アプリケーションをコンテキスト・ルート / で実行する必要があります。(サイト・キャプチャによってアーカイブ内からページが提供され、ここでは任意のコンテキスト・ルートを指定できます。)

## Tomcat アプリケーション・サーバーの構成

クラスタ・インストールを作成する場合は、すべてのクラスタ・メンバーに対して次の手順を実行します。

**Tomcat を構成するには：**

1. <apache-tomcat-6.0.29 directory>%conf の server.xml を開いて、次の操作を行います。
  - a. ポート 8080 を (アプリケーション・サーバーがリスニングする) サイト・キャプチャのポートに置き換えます。

### 注意

クラスタ・インストールでは、各クラスタ・メンバーに一意のポート番号を指定します。

```
<Connector port="8080" protocol="HTTP/1.1"
  connectionTimeout="20000" redirectPort="8443" />
```

- b. サイト・キャプチャのデータソースを構成します。

### 注意

クラスタ・インストールでは、各クラスタ・メンバーに同じデータソースを構成します。

選択したドライバのドライバ・クラス名および URL の構成については、[15 ページの表 1](#) を参照してください。

DB2 の構成例を次に示します。

```
<Context path="" docBase="ROOT" debug="5" reloadable="true"
  crossContext="true">
```

```

<Resource name="scDataSource"
  auth="Container"
  type="javax.sql.DataSource"
  url="jdbc:db2://<hostname>:<port>/CLUSTDB"
  driverClassName="com.ibm.db2.jcc.DB2Driver"
  username="xxxxx"
  password="xxxxxxx"
  maxActive="20"
  maxIdle="10"
  maxWait="-1" />
</Context>

```

表 1: データベース・ドライバ・パラメータ

データベース・ドライバ	パラメータ	値
SQL Server	DriverClass	net.sourceforge.jtds.jdbcx. JtdsDataSource
	必要な .jar ファイル	jtds-1.2.jar
	URL	jdbc:jtds:sqlserver:// <server>:<dbport>/<dbname>  例: jdbc:jtds:sqlserver:// 10.120.14.22:1433/SC70
DB2	DriverClass	com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
	必要な .jar ファイル	db2jcc.jar、db2cc_license_cu.jar
	URL	jdbc:db2://<hostname>:<dbport>/ <dbname>  例: jdbc:db2://10.120.16.30:50000/ SC70
Oracle	DriverClass	oracle.jdbc.driver.OracleDriver
	必要な .jar ファイル	Ojdbc6.jar
	URL	jdbc:oracle:thin:@//<hostname>:1521/ <dbname>  例: jdbc:oracle:thin:@// godzilla.fatwire.com:1521/SC70

2. データベース・ドライバに必要な jar ファイルを <apache-tomcat-6.0.29 directory>\lib にコピーします。
3. アプリケーション・サーバーの構成が完了したら、第3章「Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャのインストール」に進みます。

## WebLogic アプリケーション・サーバーの構成

クラスタ・インストールを作成する場合は、すべてのクラスタ・メンバーに対して次の手順を実行します。

### WebLogic を構成するには：

1. WebLogic にドメインを作成し、そのドメインの管理者ユーザー名およびパスワードを構成します。
2. WebLogic 管理サーバーをコマンド・プロンプトから起動します。
  - Windows: startweblogic.cmd
  - UNIX: ./startweblogic.sh
3. コンソールにログインします。
  - a. 前述の手順で作成したドメインに管理対象サーバー <managed\_server\_name> を作成します。

#### 注意

クラスタ・インストールでは、各クラスタ・メンバーに一意のポート番号を指定します。

- b. データソースを作成して、管理対象サーバー <managed\_server\_name> にマップします。

#### 注意

クラスタ・インストールでは、各クラスタ・メンバーに同じデータソースを構成します。

4. アプリケーション・サーバーの構成が完了したら、[第3章「Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャのインストール」](#)に進みます。

## WebSphere アプリケーション・サーバーの構成

クラスタ・インストールを作成する場合は、すべてのクラスタ・メンバーに対して次の手順を実行します。

### WebSphere を構成するには：

1. WebSphere アプリケーション・サーバー・インスタンスを作成します。

#### 注意

クラスタ・インストールでは、各クラスタ・メンバーに一意のポート番号を指定します。

2. 新しく作成したサーバー・インスタンスのデータソースを作成します。

#### 注意

クラスタ・インストールでは、各クラスタ・メンバーに同じデータソースを構成します。

- a. 必要なデータベース・ドライバを <websphere\_install\_dir>/websphere/AppServer/universalDriver/lib にコピーします。(必要なドライバについては、[15 ページの表 1](#) を参照してください)。
  - b. WebSphere コンソールにログインして、次の操作を行います。
    - 1) 別名を作成することでデータベースのユーザー名およびパスワードを追加します(「**Security**」 → 「**Global security**」 → 「**Java Authentication and Authorization**」 → 「**Service**」 → 「**J2C authentication data**」 に移動します)。
    - 2) JDBC プロバイダおよびデータソースを作成します(「**Resources**」 → 「**JDBC**」 に移動します)。
3. アプリケーション・サーバーの構成が完了したら、[第3章「Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャのインストール」](#)に進みます。



## 第 3 章

# Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャのインストール

サイト・キャプチャは、GUI インストーラまたはサイレント・インストーラを使用してインストールできます。最初にインストーラを使用して war ファイルを作成し、この war ファイルを手動でデプロイして、インストールをテストします。

この章は、次の項で構成されています。

- [インストール手順](#)
- [インストール後の手順](#)
- [次の手順](#)

## インストール手順

サイト・キャプチャをインストールするには、次の基本的な手順を実行します。

1. サイレント・インストーラまたは GUI インストーラを実行して、サイト・キャプチャの war ファイル (ROOT.war) を作成します。
  2. サイト・キャプチャ・アプリケーションをデプロイします。
- 手順の詳細は、以降の各項で説明します。

### 注意

- クラスタ・インストールを作成する場合：
    - インストーラを一度実行します。この章で示しているように、ROOT.war ファイル (および ROOT フォルダ) をすべてのクラスタ・メンバーにデプロイします。
    - サイト・キャプチャのインストール・ディレクトリは、他のすべてのクラスタ・メンバーがアクセスできる共有ディレクトリである必要があります。
  - サンプル・クローラをインストールすることをお勧めします。サイト・キャプチャ・インストールをただちにテストおよび使用する手順は、次に説明する **Sample** クローラに基づいています。
    - **Sample** は、簡単に構成してあらゆる動的サイトをキャプチャできる基本的なクローラです。この構成手順では、クローラの構成ファイルにクローラの起動 URI を設定します。
    - **FirstSiteII** は、WebCenter Sites の FirstSiteII サンプル Web サイトをキャプチャするための高度な構成コードを使用するクローラです。このコードによって、クローラのサイト・キャプチャ・プロセスを制御するために使用する、様々なメソッドやインタフェースの実装デモが行われます。ここでは、動的サイト (FirstSiteII) を静的サイトとしてダウンロードする例が示されています。
- クローラは必要がなくなれば簡単に削除できます。

## サイレント・インストーラの実行

### 注意

サイレント・インストーラではなく GUI インストーラを実行する場合は、[21 ページの「GUI インストーラの実行」](#)に移動します。

1. sitecapture.zip ファイルをサーバー上の任意の場所で解凍します。

2. (抽出されたフォルダのルート・レベルにある) `omii.ini` ファイルを、ファイル内の指示に従って構成し、ファイルを保存します。

#### 注意

サンプル・クローラをインストールすることをお勧めします。クローラの詳細は、このページの最初の「注意」を参照してください。

3. (抽出されたフォルダのルート・レベルにある) `Install.ini` ファイルを開き、最初のセクションに行 `loadfile=omii.ini` を追加して、ファイルを保存します。
4. コマンド・プロンプトを開き、次のいずれかのコマンドを実行します。
  - Windows: `scInstall.bat -silent`
  - Linux: `scInstall.sh -silent`インストールが正常に実行されると、コマンド・ウィンドウに `Installation Finished Successfully` というメッセージが表示されます。
5. インストーラ・プロセスが正常に終了し、コマンド・プロンプトが再表示されるまで待ちます。ROOT フォルダおよび `ROOT.war` ファイルが、`omii.ini` ファイルで指定されたインストール・ディレクトリの `webapps` フォルダに作成されます。
6. サイト・キャプチャの `ROOT.war` ファイルをデプロイします。手順については、次のいずれかの項を参照してください。
  - [Tomcat アプリケーション・サーバーへのデプロイ](#)
  - [WebLogic アプリケーション・サーバーへのデプロイ](#)
  - [WebSphere アプリケーション・サーバーへのデプロイ](#)

## GUI インストーラの実行

#### 注意

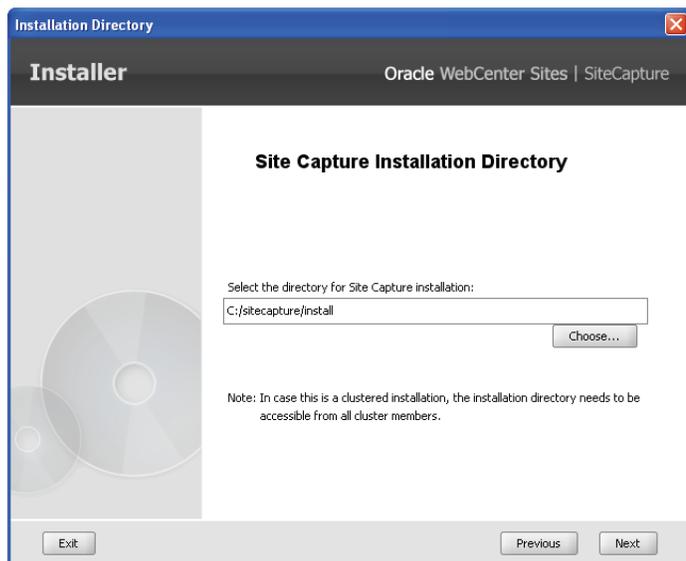
GUI インストーラではなくサイレント・インストーラを実行する場合は、[20 ページの「サイレント・インストーラの実行」](#)に移動します。

1. `sitecapture.zip` をサイト・キャプチャ・サーバー上のディレクトリにダウンロードし、一時ディレクトリで解凍します。抽出されたフォルダには、サイト・キャプチャ・インストーラの実行に必要な `scInstall.bat` および `scInstall.sh` ファイルが含まれています。
2. 次のインストーラ・スクリプトを実行します。
  - Windows の場合: `scInstall.bat`
  - UNIX の場合: `scInstall.sh`

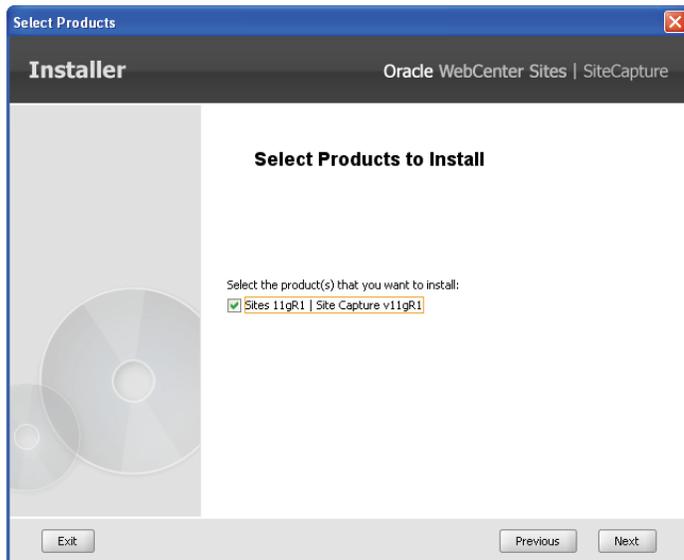
インストーラのような画面が表示されます。



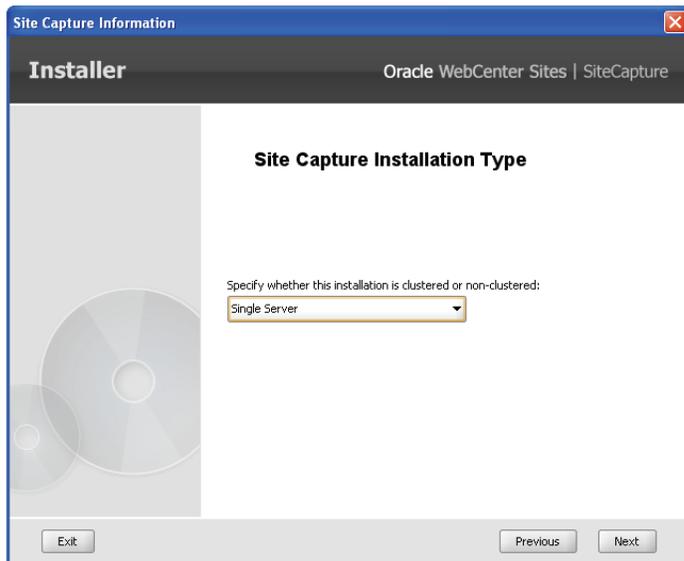
3. サイト・キャプチャのインストール先ディレクトリのパスを指定して、次をクリックします。



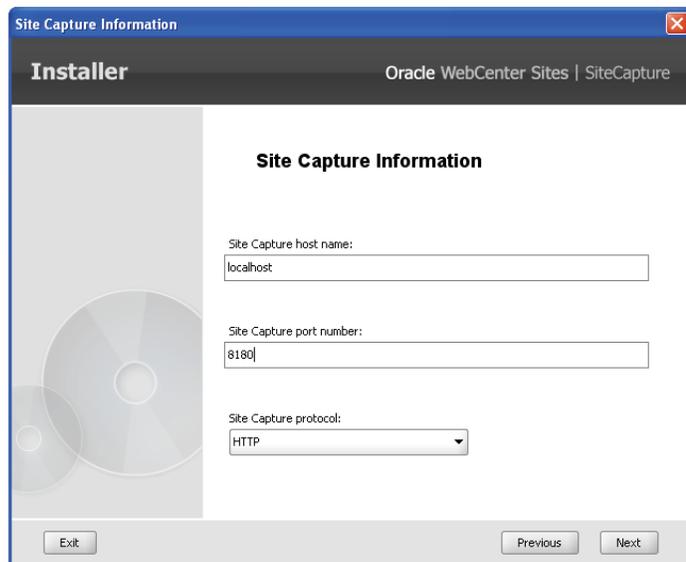
4. インストールする製品 (サイト・キャプチャ) を選択し、**次**をクリックします。



5. 単一サーバーまたはクラスタを選択し、**次**をクリックします。

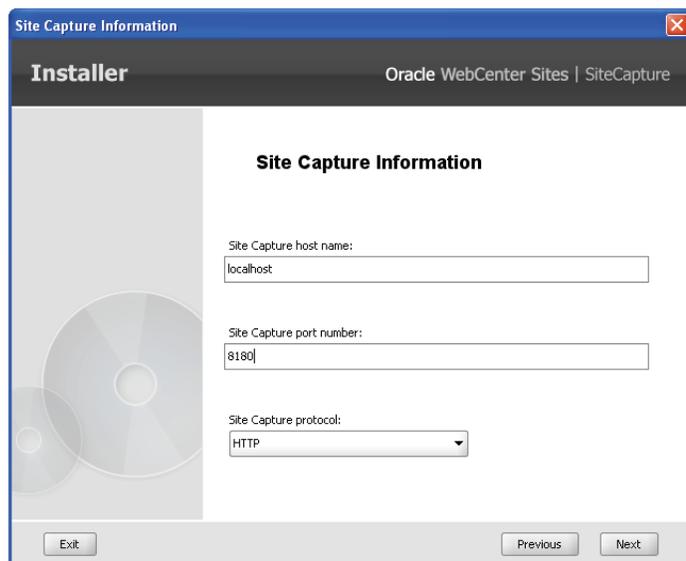


6. サイト・キャプチャのホスト・マシンに関する情報を入力します。
  - 単一サーバー・インストール:
    - サイト・キャプチャ・アプリケーション・サーバーを実行するマシンのホスト名 (または IP アドレス) を入力します。
    - サイト・キャプチャ・アプリケーション・サーバーのポート番号 (アプリケーション・サーバーの構成手順で指定した同じ番号) を入力します。
    - プロトコルに HTTP または HTTPS を指定します。



The screenshot shows a dialog box titled "Site Capture Information" with a sub-header "Installer" and "Oracle WebCenter Sites | SiteCapture". The dialog contains three input fields: "Site Capture host name" with the value "localhost", "Site Capture port number" with the value "8180", and "Site Capture protocol" with a dropdown menu set to "HTTP". At the bottom, there are three buttons: "Exit", "Previous", and "Next".

- クラスタ・インストール:
  - ロード・バランサを実行するマシンのホスト名 (または IP アドレス) を入力します。
  - ロード・バランサのポート番号を入力します。
  - プロトコルに HTTP または HTTPS を指定します。



This screenshot is identical to the one above, showing the "Site Capture Information" dialog box with "localhost", "8180", and "HTTP" entered. It represents the same configuration step for a cluster installation.

7. サイト・キャプチャをアプリケーションとして実行する WebCenter Sites システムに関する次に示す情報を入力します。
  - WebCenter Sites のホスト名 (または IP アドレス)
  - WebCenter Sites がリスニングするポート
  - WebCenter Sites アプリケーション・サーバーのプロトコル (HTTP または HTTPS)
  - WebCenter Sites アプリケーションのコンテキスト・ルート

Oracle WebCenter Sites Information

Installer Oracle WebCenter Sites | SiteCapture

**Oracle WebCenter Sites Information**

Oracle WebCenter Sites host name:

Oracle WebCenter Sites port number:

Oracle WebCenter Sites context root:

Oracle WebCenter Sites protocol:

Exit Previous Next

8. WebCenter Sites 管理者の資格証明を入力します。
  - WebCenter Sites 全体管理者の現在のユーザー名
  - 現在のパスワード

Oracle WebCenter Sites Information

Installer Oracle WebCenter Sites | SiteCapture

**Oracle WebCenter Sites Admin Information**

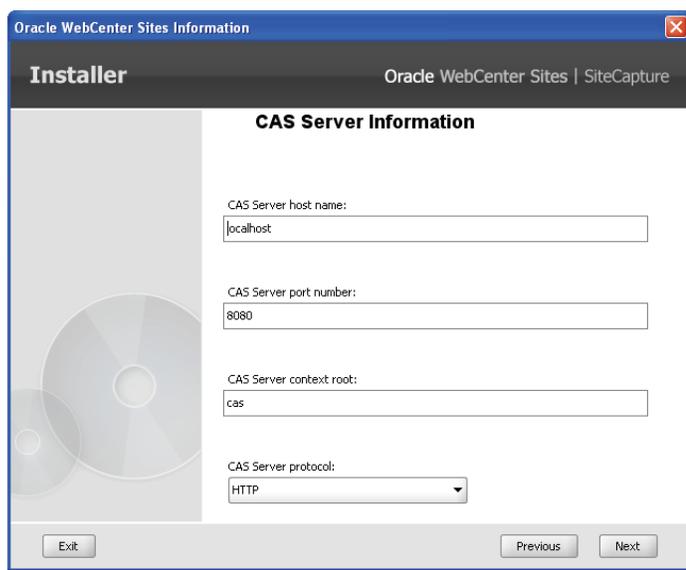
Oracle WebCenter Sites Admin User:

Oracle WebCenter Sites Admin User's Password (default is 'xceladmin'):  
Default password is 'xceladmin':

Re-enter Oracle WebCenter Sites Admin User's Password:

Exit Previous Next

9. CAS アプリケーションに関する情報を入力します。
- CAS のホスト名 (または IP アドレス)
  - ポート番号
  - CAS アプリケーション・サーバーのプロトコル (HTTP または HTTPS)
  - CAS のコンテキスト・ルート

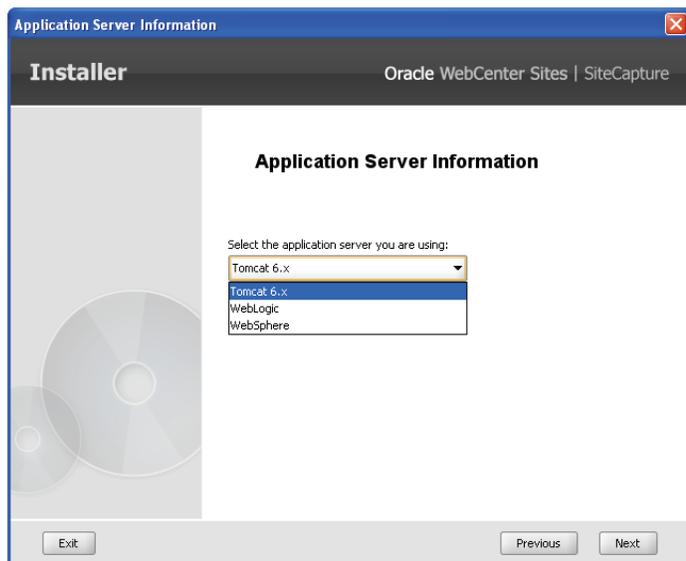


The screenshot shows the 'Oracle WebCenter Sites Information' dialog box with the 'CAS Server Information' tab selected. The dialog has a title bar with a close button. Below the title bar, it says 'Installer' and 'Oracle WebCenter Sites | SiteCapture'. The main content area is titled 'CAS Server Information' and contains four input fields: 'CAS Server host name' (with 'localhost' entered), 'CAS Server port number' (with '8080' entered), 'CAS Server context root' (with 'cas' entered), and 'CAS Server protocol' (a dropdown menu with 'HTTP' selected). At the bottom, there are three buttons: 'Exit', 'Previous', and 'Next'.

10. サイト・キャプチャをインストールするアプリケーション・サーバーを選択します。

### 注意

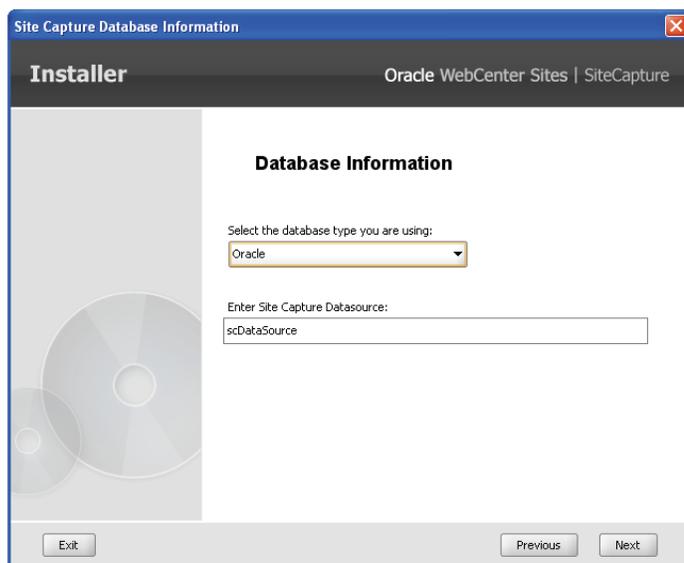
インストーラによって作成される ROOT.war ファイルをアプリケーション・サーバーにデプロイします。



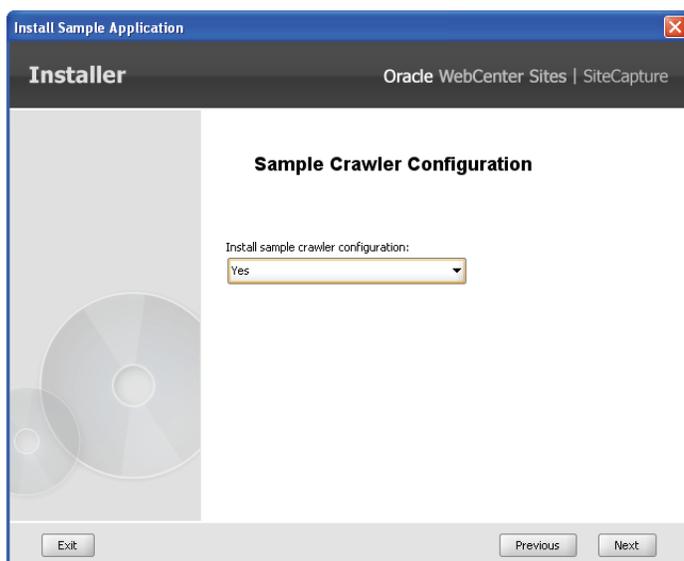
The screenshot shows the 'Oracle WebCenter Sites Information' dialog box with the 'Application Server Information' tab selected. The dialog has a title bar with a close button. Below the title bar, it says 'Installer' and 'Oracle WebCenter Sites | SiteCapture'. The main content area is titled 'Application Server Information' and contains a dropdown menu labeled 'Select the application server you are using:'. The dropdown menu is open, showing four options: 'Tomcat 6.x', 'Tomcat 6.x', 'WebLogic', and 'WebSphere'. The first 'Tomcat 6.x' option is selected. At the bottom, there are three buttons: 'Exit', 'Previous', and 'Next'.

**11. データベース情報を入力します。**

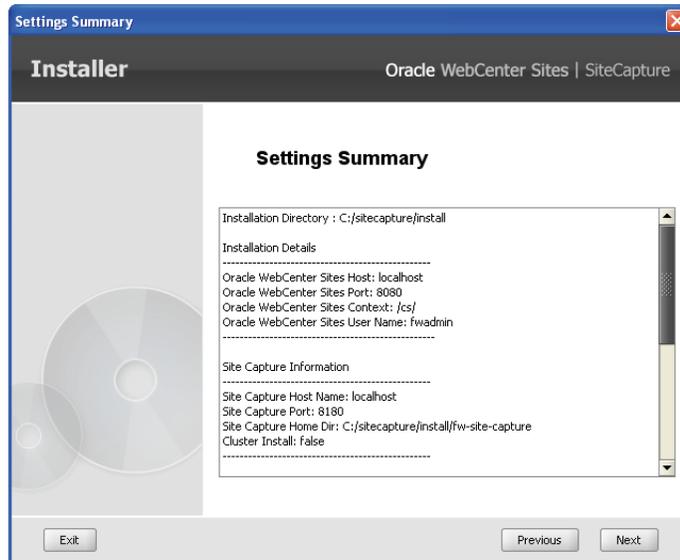
- サイト・キャプチャが接続するデータベースを選択します ( サイト・キャプチャのデータベースまたは WebCenter Sites のデータベースを選択します)。
- サイト・キャプチャのデータソース名を、アプリケーション・サーバーで構成されているとおりに正確に指定します ( 第3章「Oracle WebCenter Sites: サイト・キャプチャのインストール」 )。

**12. サンプル・クローラをインストールするかどうかを選択します。****注意**

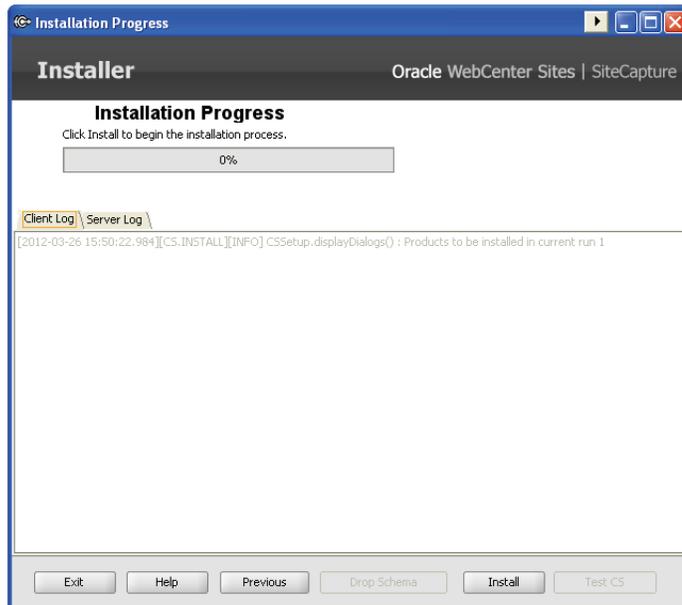
サンプル・クローラをインストールすることをお勧めします。クローラの詳細は、[20 ページ](#)の最初の「注意」を参照してください。



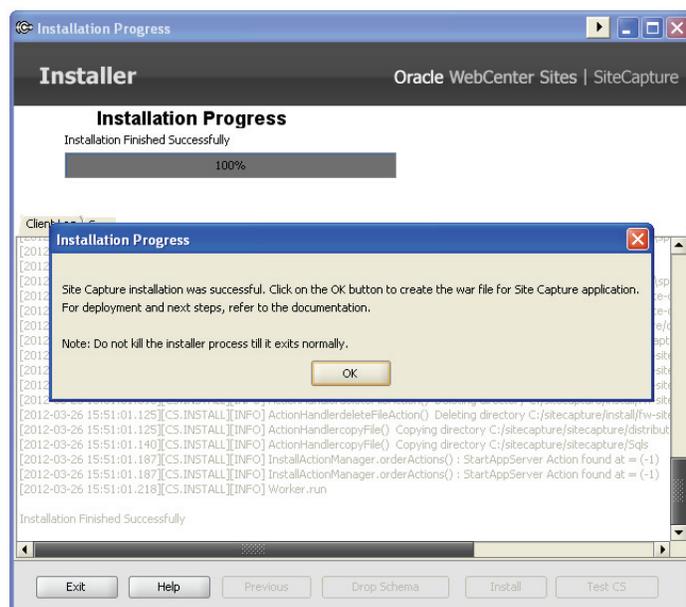
13. 設定の概要をレビューして、入力したデータを確認します。設定を編集するには、**前**をクリックして該当する画面に戻ります。



14. 設定を確認したら、**インストール**をクリックします。



インストール・プロセスが正常に終了すると、"Site Capture war file was successfully created" というメッセージが表示されます。



サイト・キャプチャ・ファイル・システムも作成されています。ROOT.war という war ファイルが <SC\_INSTALL\_DIR>/fw-site-capture/webapps フォルダにあります。サイト・キャプチャ・ファイル・システムの詳細は、39 ページの「サイト・キャプチャ・ファイル・システム」を参照してください。

15. サイト・キャプチャの ROOT.war ファイルをデプロイします。手順については、次のいずれかの項を参照してください。
  - Tomcat アプリケーション・サーバーへのデプロイ
  - WebLogic アプリケーション・サーバーへのデプロイ
  - WebSphere アプリケーション・サーバーへのデプロイ

## サイト・キャプチャのデプロイ

### 注意

- クラスタ・インストールでは、クラスタ・メンバーそれぞれに対してデプロイメント手順を実行します。
- サイト・キャプチャ・アプリケーションには、コンテキスト・ルートの / が必要です。

## Tomcat アプリケーション・サーバーへのデプロイ

1. `<SC_INSTALL_DIR>%fw-site-capture%webapps%` の ROOT フォルダをコピーして、`<apache-tomcat-6.0.29 directory>%webapps%` ディレクトリの ROOT フォルダを上書きします。
2. サイト・キャプチャを起動するには、次の操作を行います。
  - a. WebCenter Sites が実行されていることを確認します。
  - b. アプリケーション・サーバーを起動します (`<apache-tomcat-6.0.29 directory>%bin` フォルダ内の `startup.bat` または `startup.sh` ファイルを実行します)。
3. 31 ページの「インストール後の手順」に進みます。

## WebLogic アプリケーション・サーバーへのデプロイ

1. サイト・キャプチャの `WEB-INF%lib` フォルダにある `antlr-2.7.7.jar` および `commons-lang-2.5.jar` というファイルをコピーします。

```
<SC_INSTALL_DIR>%fw-site_capture%webapps%ROOT%WEB-INF%lib
```

それらを次の WebLogic インストール・パスに貼り付けます。

```
<Weblogic Home>%wlserver_10.3%common%lib
```
2. (`<Weblogic Home>%user_projects%domains%<domain name>%bin` にある) `setdomainEnv.cmd` または `setdomainEnv.sh` ファイル内の `PRE_CLASSPATH` をサイト・キャプチャのドメイン用に設定します。変更が必要なコード例を次に示します。
  - **Windows の場合** (`setdomainEnv.cmd`):

```
set WL_HOME=E:%<WL_HOME%Weblogic%wlserver_10.3

set PRE_CLASSPATH=%WL_HOME%common%lib
%antlr-2.7.7.jar;%WL_HOME
%common%lib%commons-lang-2.5.jar(in windows machine)

for %%i in ("%WL_HOME%") do set WL_HOME=%%~fsi
```
  - **Linux の場合** (`setdomainEnv.sh`):

```
WL_HOME="/root/Oracle/Middleware/wlserver_10.3"

PRE_CLASSPATH=$WL_HOME/common/lib/antlr-2.7.7.jar:
$WL_HOME/common/lib/commons-lang-2.5.jar

export WL_HOME
```
3. サイト・キャプチャ・アプリケーションをデプロイします。
  - a. コンソールのデプロイメント・セクションに移動し、`<SC_INSTALL_DIR>%fw-site-capture%webapps` にある ROOT フォルダのパスを選択します。
  - b. デプロイメント・ターゲットに管理対象サーバーを選択します。

4. サイト・キャプチャを起動するには、次の操作を行います。
  - a. WebCenter Sites が実行されていることを確認します。
  - b. 管理対象サーバー <managed\_ server\_name> を起動します。たとえば、次のように指定します。

```
./startmanagedweblogic.sh <managed_ server_name>  
http://<admin_server_hostname>:<admin_server_port>/
```
5. 31 ページの「インストール後の手順」に進みます。

## WebSphere アプリケーション・サーバーへのデプロイ

1. WebSphere の管理インタフェースで、次の手順を実行します。
  - a. 「Application」 → 「Application Types」 → 「WebSphere enterprise applications」の順にパスを移動し、<SC\_INSTALL\_DIR>%fw-site-capture%webapps%にある ROOT.war ファイルを選択します。
  - b. デプロイメント・プロセスを実行します。
2. サイト・キャプチャを起動するには、次の操作を行います。
  - a. WebCenter Sites が実行されていることを確認します。
  - b. アプリケーション・サーバーを起動します。
3. 31 ページの「インストール後の手順」に進みます。

## インストール後の手順

サイト・キャプチャをインストールしてアプリケーション・サーバーを起動すると、サイト・キャプチャが起動され、AdminSite で有効なアプリケーションとして自動的に登録されます。さらに、データベースが Oracle である場合を除き、必要な表や記録がサイト・キャプチャのデータベースに追加されます。

サイト・キャプチャのインストールを完了して検証するには、次の各項の手順を実行します。

- サイト・キャプチャで Oracle データベースを使用する場合
- サイト・キャプチャ・アプリケーションの検証
- サイト・キャプチャを操作するためのユーザーの認可

## サイト・キャプチャで Oracle データベースを使用する場合

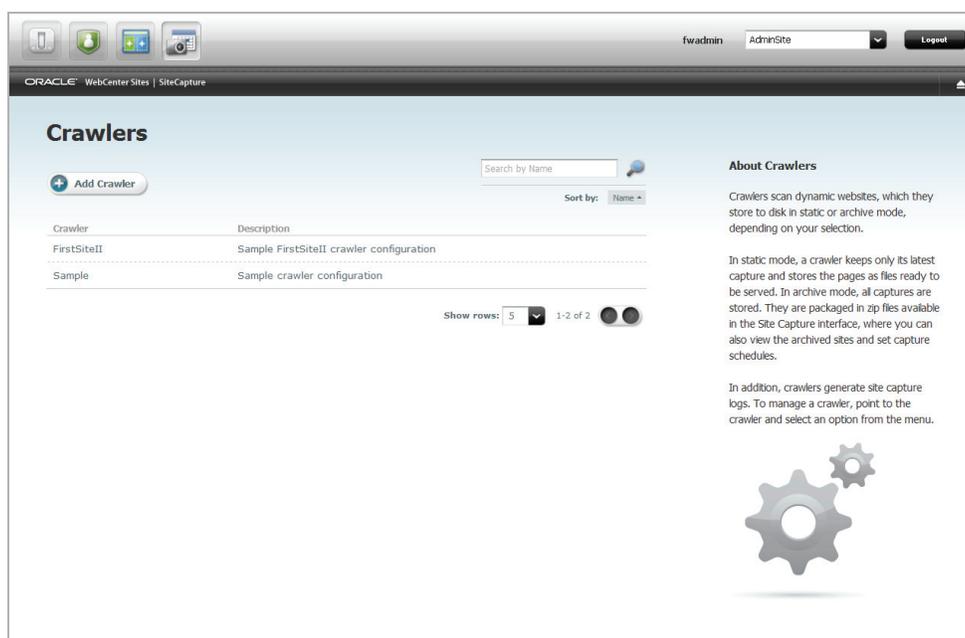
サイト・キャプチャで Oracle データベースを使用する場合は、スキーマを作成する sql スクリプトを手動で実行する必要があります。<SC\_INSTALL\_DIR>/Sql-Scripts フォルダにある crawler\_oracle\_db.sql というスクリプトを使用します。

## サイト・キャプチャ・アプリケーションの検証

サイト・キャプチャ・アプリケーションを WEM Admin インタフェースで選択できることを確認します。

1. 全体管理者として WebCenter Site にログインします。
2. AdminSite に移動して WEM Admin アプリケーションを選択します。
3. メニュー・バーでアプリケーションをクリックし、サイト・キャプチャがアプリケーションページに表示されていることを確認します。
4. サイト・キャプチャ・アプリケーションに移動します (  アイコンで表されます)。

ホームページが表示されます。サンプル・クローラのインストールを選択すると、サンプル・クローラがホームページに **Sample** および **FirstSiteII** として表示されます。



## サイト・キャプチャを操作するためのユーザーの認可

サイト・キャプチャ・アプリケーションは、WebCenter Sites 全体管理者、および一般的な管理権限を持つ開発者向けに設計されています。これらのユーザーは、サイト・キャプチャ・アプリケーションが登録および実行されている AdminSite へのアクセス権限を持ちます。(アクセス権限は、AdminSite の GeneralAdmin ロールを介して、および RestAdmin セキュリティ・グループのユーザー・メンバーシップによって付与されます。ユーザー認可および WEM Admin インタフェースの詳細は、Oracle WebCenter Sites WEM フレームワーク管理者ガイドを参照してください。)

静的に取得されたサイトやクローラ・ログを取得する場合は、サイト・キャプチャ・ユーザーにもホスト・マシンに対する管理権限が必要になります。

## 次の手順

- パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャを設定する場合は、[第4章「パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャの有効化」](#)を参照してください。
- サイト・キャプチャの使用を開始するには、『*Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド*』のインターフェースの移動およびクローラ構成コードの記述に関する項を参照してください。



## 第 4 章

# パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャの有効化

サイト・キャプチャ・アプリケーションをインストールすると、パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャを有効にできます。

この章は、次の項で構成されています。

- [サイト・キャプチャと Oracle WebCenter Sites のパブリッシュ・プロセスの統合](#)
- [次の手順](#)

## サイト・キャプチャと Oracle WebCenter Sites のパブリッシュ・プロセスの統合

サイト・キャプチャは、リアルタイム・パブリッシュ・セッションの完了に続いてトリガーできます。パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャを有効にするには、サイト・キャプチャ・アプリケーションをインストールした後(第3章)、この項の手順を実行します。これらの手順では、WebCenter Sites のパブリッシュ・システムを、インストール済のサイト・キャプチャ・アプリケーションと通信するように統合する方法について説明します。実行可能な構成の一部について、11 ページの図3 および 4 を参照してください。

**サイト・キャプチャと WebCenter Sites のパブリッシュ・プロセスを統合するには：**

1. WebCenter Sites ソース・システムで次の操作を行います。
  - a. fw-crawler-publish-listener-1.0.jar ファイルを <cs\_deploy>/WEB-INF/lib フォルダにデプロイします。
  - b. fw-crawler-publish-listener-1.0-elements.zip ファイルを解凍し、CatalogMover を使用して FW\_PublishingEventRegistry.html をインポートします。  
この手順では、WebCenter Sites データベースの FW\_PublishingEventRegistry 表に RemoteElementInvokingPublishingEventListener レコードが作成されます。これにより、パブリッシュ・イベントで WebCenter Sites ターゲット・システム上の InvokeCrawler 要素をコールできるようになります。
  - c. WebCenter Sites ソース・システムを再起動します。
2. WebCenter Sites ターゲット・システムで次の操作を行います。
  - a. CatalogMover を使用して、前述の手順 1.-b. で (WebCenter Sites ソース・システムに) 解凍した fw-crawler-publish-listener-1.0-elements.zip ファイルから ElementCatalog.html および SiteCatalog.html をインポートします。  
この手順では、InvokeCrawler.jsp がインポートされ、これがサイト・キャプチャ・アプリケーションでのクローラの起動に使用されます。

### 注意

クローラは、サイト・キャプチャのパブリッシュの宛先定義およびサイト・キャプチャ・アプリケーションで定義されている必要があります。詳細は、37 ページの「次の手順」を参照してください。

- b. /<cs\_deploy>/WEB-INF/classes フォルダにある crawler.properties ファイルをコピーして、次のプロパティを構成します。
    - sc.url: 次のいずれかを行います。

**単一サーバー・インストールでは、** サイト・キャプチャ・アプリケーションの URL を指定します。  
sc.url=http://<sitecapturehost:sitecaptureport>/\_\_admin

**クラスター・インストールでは、** ロード・バランサの URL を指定します。  
sc.url=http://<loadbalancerhost:loadbalancer>/\_\_admin
    - cas.url=http://<cas-host:casport>/cas  
サイト・キャプチャ・アプリケーションによってポイントされる CAS アプリケーションを指定します。
    - cs.username=<RestAdmin User>  
WebCenter Sites の全体管理者のユーザー名をサイト・キャプチャのインストール・プロセスで指定したとおりに指定します。
    - cs.password=<Password>  
前述のユーザーのパスワードをサイト・キャプチャのインストール・プロセスで指定したとおりに指定します。
  - c. fw-crawler-publish-listener-1.1.jar ファイルを、ターゲット WebCenter Sites システムの <cs\_deploy>/WEB-INF/lib フォルダにデプロイします。
3. これで統合プロセスは完了しました。「次の手順」に進んで、パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャ操作の設定の概要について確認してください。

## 次の手順

この時点で統合プロセスは完了していますが、パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャが機能するには、次の条件も満たす必要があります。

- リアルタイム・パブリッシュの宛先定義をソース・システムに構成して、新しくパブリッシュされたサイトをキャプチャするために起動するクローラに名前を付ける必要があります。この定義には、クローラのキャプチャ・モードを指定する必要もあります。

- 前述の手順で名前を付けられたクローラが、サイト・キャプチャ・アプリケーションにも存在する必要があります。さらに、各クローラ用の `CrawlerConfigurator.groovy` ファイルに、少なくともクローラの有効な開始 URI とリンク抽出ロジックを指定する必要があります。

### 注意

前述の構成手順が完了したら、ソース WebCenter Sites システムからターゲット WebCenter Sites システムにサイトをパブリッシュします。パブリッシュが終了すると、サイト・キャプチャが開始され、次のように実行されます。

1. ソース WebCenter Sites システムがターゲット・システム上の `InvokeCrawler` 要素をコールします。
2. ターゲット WebCenter Sites システムがサイト・キャプチャ・アプリケーションと通信し、クローラを起動します。
3. WebCenter Sites ターゲット・システムから WebCenter Sites ソース・システムにクローラの起動ステータスが伝えられます。ソースおよびターゲットの両方のシステムで、自身のログ・ファイル(デフォルトは `futuretense.txt`) にステータス情報が記録されます。

同時に、パブリッシュの宛先定義の設定に応じて、起動したクローラによりサイト・リソースが静的モードまたはアーカイブ・モードでキャプチャされます。

パブリッシュ・トリガー・サイト・キャプチャを有効にすると、必要に応じていくつでもパブリッシュの宛先定義を構成し、クローラを起動できます。前述の構成手順を続行する準備ができたなら、手順について『Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド』を参照してください。サイト・キャプチャ・インタフェースの移動、サイト・キャプチャ操作の設定、およびサイト・キャプチャ・プロセスを制御するクローラの構成ファイルのコーディングについても、この同じガイドを参照してください。

## 付録 A

# サイト・キャプチャ・ファイル・システム

サイト・キャプチャ・ファイル・システムはサイト・キャプチャのインストール・プロセス中に作成され、インストールに関連したファイル、プロパティ・ファイル、サンプル・クローラ、およびサイト・キャプチャ・プロセスを制御するために **FirstSiteII** クローラによって使用されるサンプル・コードが格納されます。ファイル・システムでは、カスタム・クローラおよびそのキャプチャを編成するフレームワークも提供されます。

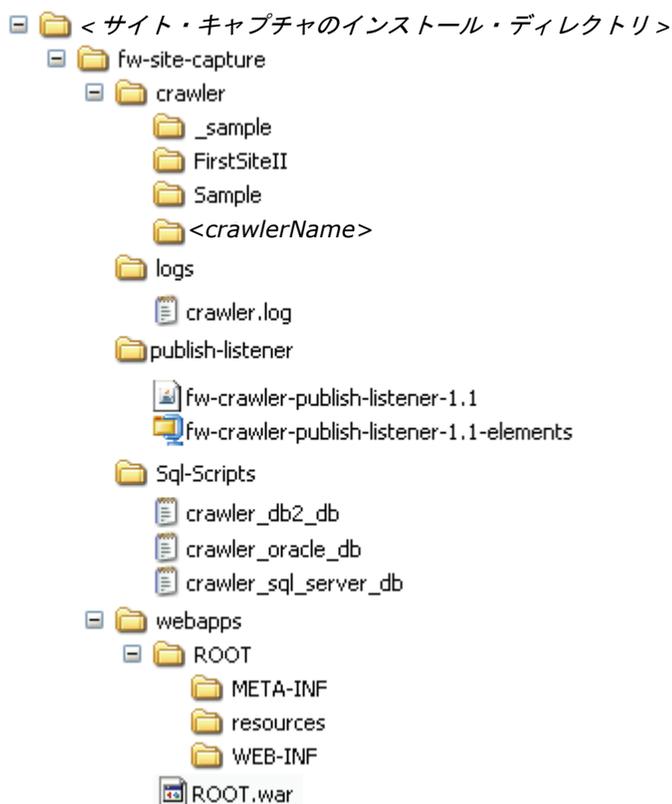
この章は、次の項で構成されています。

- [一般的なディレクトリ構造](#)
- [カスタム・フォルダ](#)

## 一般的なディレクトリ構造

図 1 は、一般的に使用されるサイト・キャプチャの情報を管理者が見つける際に役立つ、最も頻繁にアクセスされるサイト・キャプチャのフォルダを示しています。<crawlerName> 以外のすべてのフォルダは、サイト・キャプチャのインストール・プロセス中に作成されます (<crawlerName> フォルダの詳細は、41 ページおよび 42 ページの「カスタム・フォルダ」を参照してください)。

図 1: サイト・キャプチャ・ファイル・システム



フォルダ	説明
/fw-site-capture	親フォルダ。
/fw-site-capture/crawler	すべてのサイト・キャプチャ・クローラを含みます。各クローラは、そのクローラ固有のフォルダに格納されます。
/fw/site-capture/crawler/_sample	FirstSiteII サンプル・クローラのソース・コードを含みます。コードの詳細は、『Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド』を参照してください。 <b>注意:</b> アンダースコア ( ) で始まるフォルダ名はクローラとして処理されません。それらはサイト・キャプチャ・インタフェースに表示されません。

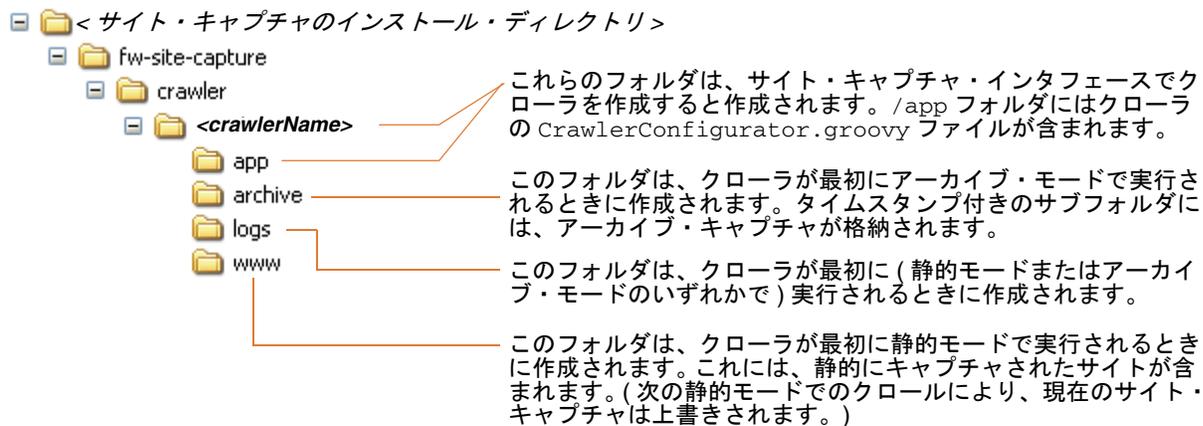
フォルダ	説明
/fw-site-capture/crawler/ <crawlerName>	<p>クローラを表します。このカスタム・フォルダは、ユーザーがサイト・キャプチャ・インタフェースで定義するすべてのクローラについて、サイト・キャプチャによって作成されます。このフォルダは、クローラの構成ファイル、アーカイブ・キャプチャ、静的キャプチャおよびログを編成するために使用されます。&lt;crawlerName&gt; フォルダ構造の概要については、<a href="#">42 ページの「カスタム・フォルダ」</a>を参照してください。フォルダ構造の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド</i>』を参照してください。</p> <p><b>注意:</b> この表内の後続の 2 行で説明しているように、FirstSiteII および Sample フォルダは &lt;crawlerName&gt; フォルダのサンプルです。</p>
/fw-site-capture/crawler/ FirstSiteII	<p>FirstSiteII というサンプル・クローラを表します。このフォルダは、サイト・キャプチャのインストール・プロセス中に FirstSiteII クローラがインストールされた場合にのみ作成されます。</p> <p>FirstSiteII フォルダには、FirstSiteII クローラ固有の CrawlerConfiguration.groovy ファイルを格納する /app フォルダが含まれます。このファイルには、WebCenter Sites の動的な FirstSiteII サンプル Web サイトを静的な Web サイトとしてキャプチャし、このようにして BaseConfigurator クラスの様々なメソッドおよびインタフェースを使用するためのデモを行う高度な構成コードが含まれています。</p> <p>FirstSiteII クローラが静的モードまたはアーカイブ・モードで起動されると、/FirstSiteII フォルダにサブフォルダが作成されます。フォルダ構造の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
/fw-site-capture/crawler/ Sample	<p>Sample というクローラを表します。このフォルダは、サイト・キャプチャのインストール・プロセス中に Sample クローラがインストールされた場合にのみ作成されます。</p> <p>Sample フォルダには、Sample クローラ固有の CrawlerConfiguration.groovy ファイルを格納する /app フォルダが含まれます。このファイルには、あらゆる動的サイトをキャプチャする基本的な構成コードが含まれています。このコードによって、BaseConfigurator クラスの必須メソッド (getStartUri など) を使用するためのデモが行われます。</p> <p>Sample クローラが静的モードまたはアーカイブ・モードで起動されると、/Sample フォルダにサブフォルダが作成されます。フォルダ構造の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
/fw-site-capture/logs	crawler.log ファイル (サイト・キャプチャのシステム・ログ) を含みます。

フォルダ	説明
/fw-site-capture/publish-listener	パブリッシュ・トリガー・クローल用のサイト・キャプチャをインストールするために必要な次のファイルを含みます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>fw-crawler-publish-listener-1.1-elements.zip</li> <li>fw-crawler-publish-listener-1.1.jar</li> </ul>
/fw-site-capture/Sql-Scripts	次のスクリプトを含みます。これらのスクリプトによって、サイト・キャプチャのデータの格納に必要なデータベース表が作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>crawler_db2_db.sql</li> <li>crawler_oracle_db.sql</li> <li>crawler_sql_server_db.sql</li> </ul>
/fw-site-capture/webapps	ROOT/WEB-INF/ フォルダを含みます。
/fw-site-capture/webapps/ROOT/WEB-INF	crawler.log ファイルのパスをカスタマイズするために使用される log4j.xml ファイルを含みます。
/fw-site-capture/webapps/ROOT/WEB-INF/classes	次のファイルを含みます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>sitecapture.properties ファイル。サイト・キャプチャが実行される WebCenter Sites アプリケーションの情報を指定できます。この情報には、WebCenter Sites のホスト・マシン名 (または IP アドレス) およびポート番号が含まれます。</li> <li>root-context.xml ファイル。サイト・キャプチャ・データベースを構成できます。</li> </ul>

## カスタム・フォルダ

カスタム・フォルダは、ユーザーがサイト・キャプチャ・インタフェースで作成するすべてのクローラについて作成されます。図 2 に示すように、<crawlerName> カスタム・フォルダはクローラの構成ファイル、キャプチャおよびログの編成に使用されます。

図 2: サイト・キャプチャのカスタム・フォルダ : &lt;crawlerName&gt;



カスタム・フォルダの詳細は、『Oracle WebCenter Sites サイト・キャプチャ・アプリケーション管理者ガイド』を参照してください。

